



大切なのは継続する事。 先人たちの思いを次の世代につなぐ。

「杉コレクション」は、宮崎県木材青壮年会連合会が企画し運営を行うのだが、実行委員会は毎年新しいメンバーで構成される。

担当委員会は宮崎県内の7つの会団が持ち回りで担当することになっているのだが、会団の状況は地区によって偏りがあり、中には環境の変化や市場の変化によって、やむなく廃業する会員や転業したりする会員なども多く、組織を維持するためのメンバーを確保するのが難しい会団もある。

今回、実行委員会を担当するのは東北エリア福岡木青会のメンバーたちである。数年前には、会員の不足から、会の存続も危ぶまれた時期があったが当時のメンバーが力を集めて新しい会員確保に奔走し現在のメンバーが揃った。

実は七年前延岡が担当する筈であった「杉コレクション」は当時の会の意向で実施されなかった経緯がある。さらに、当時の会員はひとりも残っておらず、全員が新人会員のよなな会団であった。

一年前、何も分からないまま宮崎での杉コレクション懇親会会場で、審査員や会員全員の前で延岡開催を宣言している。ここまで続いたイベントを自分たちの代で終わらせる訳にはいかない。なんとか継続し次へとバトンをつなぎたい。経験は少ないながら、ここまで続いてきたイベントの意味を理解するため、地元OBに指導を仰ぎ、他会団の先輩たちに相談し、ますます自分たちに課せられた責任の重さを自覚する。推進力はメンバーの意気込みのみである。



延岡エリアには、神話の郷、高千穂がふくまれる。古くから山に携わる人々も多く木材と人の関係はとても近い物であった。今回のテーマの「神話」で「森話」は、この土地に暮らし木に携わる仕事に従事するメンバーたちが、延岡で開催するため選んだテーマである。はじめは、経験の浅い自分たちでもできる規模の小さなイベントにまとめようと手探りで準備を進めた。しかしすすめてゆくと予想もなかった審査員の先生が参加してくれたり、地元商店会との協議が難航したりなど想定外の事態がつきつきと発生。その都度調整するのが「苦勞」であった。

県内の会員に連絡を取るのさえ簡単な事ではない。面識のない他会団の先輩メンバーに無理なお願いをしなくてはいけない。気は引けるがすすめていかなくてはならない。普段の仕事にはない緊張である。

このように延岡での開催準備が新しい実行委員会メンバーの手ですすめられた。



杉コレ2013総評

審査委員長 内藤 廣氏 建築家

今年の杉コレの会場は延岡でした。最終審査には、もはや特別審査委員として常連になりつつある篠原修さん(土木計画、都市計画、街造りの大ボス)と川上元美さん(世界的に著名な家具デザイナー、デザイン界の至宝)、この二大巨匠に加えて、首藤正治延岡市長(市長は朝から夜の宴会まで、ずっと付き合ってくださいました)、延岡市の街造りに加わっている山崎亮さん(もはやテレビの有名人、どんな話題にも対応、なんでも答えます)と乾久美子さん(わが国の建築界の中堅でイチオシの建築家)、という豪華な特別審査委員によって審査されました。上記の括弧内のごとは、冗談ではなくホントウです。正規の審査委員は、内藤、南雲勝志さん、飯村豊さん、支援をしてくださっている内田洋行の柏原孝社長(ホントウの社長です)、木青連の工藤建樹さんの五名。これだけ特別審査委員のメンツがそろくと正規の審査委員は存在感が薄くなりそうですが、そこは勇気を出してダジャレを連発して無駄な自己主張を繰り返し、その存在を忘れられないように頑張りました。

一昨年の安田圭沙ちゃんのだっこいす!

来子供部門での同盟関係が続いている岩手県の野田村からは、復興担当の明内さんが最終選考に残った次嘉香波ちゃんとお母さんと共に駆けつけてくれました。いつも通り、若杉さんと千代田さんのWCコンビの司会進行は舌好調でした。もはや分別があつてしかるべき中年とは思えないノリでした。杉コレでは何か掛け金がはずれるような感じがしますね。

これだけの陣容で審査するとなると、まとまるはずがありません。作品の優秀なんてまるでどうでもいいことのように思えてきます。作品の前に、考えた人と製作した人、彼らの話を聞き、ダジャレを言い、笑い合うのが楽しい。杉コレはそれでいいのだと思います。杉を仲立ちに人の輪が出来る。それで充分です。

杉コレですでに大きな賞を得ている有馬さんの作品は、やはり高い評価を得ました。市民の投票でも圧倒的でした。もはや他の追随を許さない杉コレマイスターですね。杉の柔らかな質感を引き出す感覚はやはり凄い。彼のクリエイションのレベルは、世界でも通用するレベルに到達しつつあるように思います。みなさん、有馬さんの作品を手に入れるなら今の内です。真面目なクリエイターで、ダジャレを言えないのが欠点です。その点が改善されると杉巨匠か杉師範の称号を与えてもいいのではないかと南雲さんと話しています。

審査を通して熱い時間を過ごしました。実現に向けて汗をかいてくれた木青連のみなさん、ありがとうございました。

杉コレクション2013募集要項



作品テーマ
遊gWood!!

一般部門、子ども杉コレ部門ともに、テーマに沿ったオリジナルのアイデア作品を考えて下さい。

2013年 9月2日(月) 必着

作品テーマ
遊gWood!!

一般部門、子ども杉コレ部門ともに、テーマに沿ったオリジナルのアイデア作品を考えて下さい。

2013年 9月2日(月) 必着

作品テーマ
遊gWood!!

一般部門、子ども杉コレ部門ともに、テーマに沿ったオリジナルのアイデア作品を考えて下さい。

延岡大会テーマ
「神話」で「森話」

作品テーマ
遊gWood!!

太古より「人」は「木」と生活を共にし、切っても切り離せない関係にありました。それは神話の時代から現代に至るまで、伝え、受け継がれてきた人の想い、その想いをさらにつくむことにより「ぬくもり」が生まれました。しかしながら、人はいつしか「ぬくもり」を忘れ、「利便性」や「合理性」を求めてしまったのではないのでしょうか？ 私たちは、「杉」を使って「人」と「木」がもっと近づけないかと考えました。……「遊具ならみんなで共遊できる！」……

今までの常識に捕らわれない、自由な発想で、思わず「you good!!」と言ってしまうような、誰もが共遊できる「オンリーワン遊具」を提案して下さい。

◆**作品募集** 一般部門、子ども杉コレ部門ともに、上記のテーマに沿ったオリジナルのアイデア作品を考えて下さい。最終選考作品は出展者と協議の上、商品化する可能性もあります。

◆**応募締切** 2013年 9月2日(月) ◆**最終選考** 2013年 11月3日(日)

◆**応募資格** 【一般部門】高校生以上であればどなたでも応募いただけます。複数応募可
【子ども杉コレ部門】小学生もしくは中学生の作品。複数応募可

◆**一般作品の応募方法**
【応募方法】作品テーマに沿った、オリジナルの作品を、**実物の10分の1の模型**を作ってください。作品とともに、A4サイズ(横)の用紙に、作品のタイトル、意図やコンセプト、アイデアのポイントなどをまとめ、一緒にお送り下さい。応募者の情報(氏名、住所、連絡先、年齢、職業)は用紙の裏面に記入のこと。
【応募作品】作品は、比較的容易に設置、移動ができること。(軽トラに乗る程度の大きさ、重さ)また、アイデア時点で見ると使用した場合の安全性もある程度考慮されていること。(優れた作品は、その後商品化される可能性があります。)

◆**最終選考会について**
【実物大作品】予備選考を通過した応募者は、実行委員、製作担当者との打ち合わせの上、作品制作の指示をお願いいたします。実行委員会が指示に従い、実物大の作品に仕上げていきます。
【製作条件】主素材は「杉」とします。杉以外の素材が必要な場合、作者側にて準備をお願いする場合があります。速やかに組み立てや撤収が可能なもの(軽トラに乗る程度の大きさ、重さ)。過度に大きいものや、危険が想定できるものは除外します。使用した場合の安全性については十分に考慮して下さい。
最終選考作品で、十分に実用性が認められた場合は、協議の上、商品化の可能性もあります。

【注意事項】
1. 実物大の作品は主催者が製作しますが、特殊な金物・装飾類は、応募者の負担となります。
2. 最終選考会での会場までの旅費交通費については、応募者負担となります。
3. 未発表のオリジナル作品に限りです。
4. 作品に関する諸権利等の注意事項はホームページにて案内いたします。

【賞 品】 各賞を選考の上、表彰並びに商品(クーポン券)を授与します。

一般部門
・グループ・1点(賞状並びに副賞として30万円相当の商品券を予定)
・優秀賞……数点(賞状並びに副賞として5万円相当の商品券を予定)

子ども部門
・グループ・1点(賞状並びに副賞として2万円相当の商品券を予定)
・優秀賞……数点(賞状並びに副賞として1万円相当の商品券を予定)
・You good賞・数点(賞状並びに記念品を予定)